

予 算 要 求 資 料

令和 3 年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林整備費

事業名 岐阜県間伐推進加速化計画推進費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林整備課 整備係 電話番号：058-272-1111(内 3194)

E-mail:c11515@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,702 千円 (前年度予算額：2,357 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,357	0	0	0	0	0	5	0	2,352
要求額	2,702	0	0	0	0	0	5	0	2,697
決定額	2,702	0	0	0	0	0	5	0	2,697

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

第3期森林づくり基本計画において、平成29年度から令和3年度の5年間で、間伐を49,000ha実施、作業道を750km開設実施することとし、間伐未実施林の解消、搬出間伐の促進を図っている。

森林資源の成熟期を迎えている現在において、切り捨て間伐から搬出間伐への転換により、計画的な施業の実施が必要であり、施業プランの作成や計画的な間伐実施のための基礎データとして、間伐や作業道、森林境界等のデータを森林GIS上で管理している。

事業主体ではGISによる実績管理はまだ進んでおらず、紙面での実績報告になっている。そのため実績データを森林GISに反映するには、直接職員による入力作業が必要となっている。また、令和元年度より森林経営管理法が施行されたことにより、市町村主体の森林整備も進められることとなったことから、履歴管理と市町村との情報交換がますます必要となった。

(2) 事業内容

(ア) 事業目的・事業効果

第3期岐阜県森林づくり基本計画に基づく間伐を推進するため、間伐等の履歴を管理するとともに森林所有者等を対象に調整会議や講習会を開

催する。

(イ) 内容

1) 間伐等履歴管理（基礎的データの蓄積）

- ・間伐実施箇所、作業道開設箇所や森林境界明確化実施箇所について、森林 GIS での施業履歴のデータ管理を実施する。

2) 調整会議・講習会の開催

- ・作業道開設や搬出間伐の普及を図る。
- ・未実施間伐の要因でもある森林所有界が不明な森林について、現地機関担当者との各種会議を重ね、境界の明確化を進める。

(3) 県負担の考え方

県独自の取組みであるため、県が全額負担

(4) 類似事業の有無 無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	156	森林整備に関する研修会講師謝金
旅費	512	講師旅費（費用弁償）170、研修会等の開催（業務旅費）342
使用料	60	レンタカー代等
消耗品費	10	研修会等の資料に係るコピー用紙、その他消耗品等
報酬	1,820	補助職員報酬
共済費	18	補助職員共済費
旅費	126	補助職員旅費（費用弁償）
合計	2,702	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第3期岐阜県森林づくり基本計画 2 林業及び木材産業の振興（1）効率的な森林施業の実施を進めるに当たり、間伐等の履歴情報は必要である。

(2) 後年度の財政負担

計画的な森林整備施策を進めるためには継続的に必要である。

(3) 事業主体及びその妥当性

1) 事業主体：県

2) 妥当性：森林・林業基本法第6条に県は施策を策定し、及び実施する責務を有するとされている。

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/>	新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

第3期岐阜県森林づくり基本計画案に基づき、森林整備について再造林を450ha（R3年度）、間伐9,800ha/年及び路網整備150km/年を、それぞれ実施する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

（面積：ha、材積：m³、延長：km）

指標名	事業開始前	指標の推移	現在値 <small>（前々年度末時点）</small>	目標	達成率
間伐面積 ha/年	10,379 (H27)		23,389 (R1)	49,000 (H29～R3)	47.7%
作業道延長 km/年	227 (H27)		517 (R1)	750 (R3)	68.9%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

- ・ 森林整備事業説明会（4月26日実施、参加者80名）
- ・ 森林作業道査定基準等検討会（6月21日実施、参加者16名）
- ・ 森林整備研修（9月4日実施、参加者25名）
- ・ 森林整備担当者会議（11月16日実施、参加者23名）

（前年度の成果）

・ 間伐施業箇所、作業道開設箇所、森林境界明確化実施箇所について、森林GISでの施業履歴の蓄積、管理を行っている。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	<ul style="list-style-type: none"> ・森林資源の確かな循環のためにも、再造林に必要な優良な苗木を確保することは必要不可欠であり、豊かな森づくりにも資するものである。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	<ul style="list-style-type: none"> ・間伐の実施等、森林施業が促進されることで、森林の多面的機能が維持、確保され、林業の振興に資することができる。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	<ul style="list-style-type: none"> ・森林GISにて各種施業箇所の蓄積データを確認することができるため、次期施業計画の立案等、様々なニーズに対応可能であることから事業の効率化は図られている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・森林資源の成熟期を迎えている現在において、切り捨て間伐から搬出間伐への転換により、森林経営計画の作成や計画的な間伐の実施について、普及・PRが必要である。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・第3期森林づくり基本計画における間伐及び作業道の目標数値を達成するため、森林所有者、県民へ引き続きPRを進める。併せて補助金に頼らない自立できる林業システムの構築を目指し、指導、研修を行う。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	なし	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など		